

2020年6月18日

Asia
Research
Center

Asia Talk

“プロ”に聞く！

投資環境が良好なベトナム株式市場

※当資料は「アジアリサーチセンター」のレポートを基に作成しています。

アジア経済

「新型コロナ禍でベトナムの状況は？」

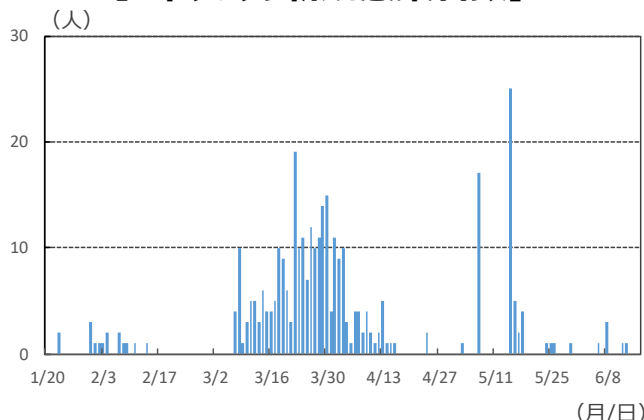
→感染封じ込めに成功し、新型コロナの死者ゼロが継続。
経済は早期に再開。

ポイント：「コロナ抑制でベトナム景気は持ち直し」

- ベトナム政府は新型コロナ感染の封じ込めに成功しており、4月23日、早々に封鎖措置を解除しました。**足元では新規感染者がゼロとなるなか、6月16日時点でコロナ感染による死者はゼロのままです。**
- ベトナムの鉱工業生産は4月に前年同月比▲10.6%へ大きく落ち込んだ後、5月に同▲3.1%へマイナス幅が縮小しました。米ドル建て輸出の伸び率が4月の同▲13.9%から5月に同▲15.5%へ悪化したことを考えると、**5月は封鎖措置の解除を受けて内需が持ち直したと推測**されます。
- 原油市況の低下もあって5月の消費者物価上昇率は前年同月比+2.4%へ鈍化しました。**金融緩和環境の継続が見込まれます。**

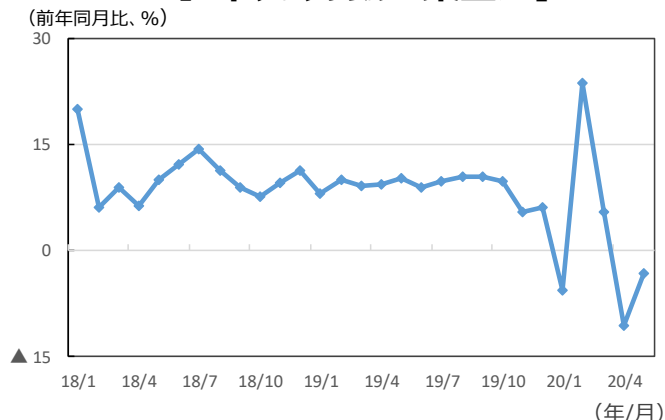
図表でチェック！

【ベトナムの新規感染者数】



(注) データは2020年1月20日～2020年6月16日。
(出所) WINDのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【ベトナムの鉱工業生産】



(注) データは2018年1月～2020年5月。
(出所) CEICのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

「ベトナムの通貨ドンの見通しは？」

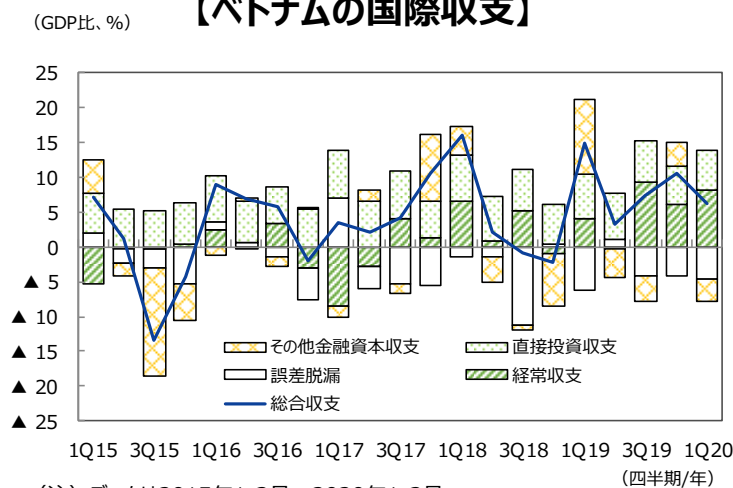
→ 経常収支の黒字を背景に対米ドルで堅調な展開を予想。

ポイント：「通貨ドンの堅調推移を予想」

- ベトナムの国際収支をみると、1-3月期の経常収支黒字はGDP比8.1%で、直接投資収支はGDP比5.7%の流入超でした。4-6月の経常収支は、新型コロナウイルスの影響による輸出の不振で赤字に陥る可能性があります。一時的と考えます。6月に合意されたEUとの自由貿易協定（FTA）批准も、直接投資の増加、中長期的な輸出拡大要因として注目されます。米中対立が再燃する中、米国向け輸出の増加も予想され、輸出主導の経済成長見通しを明るくしています。**外貨準備高は増加傾向にあり、米ドル安と相俟って、ベトナムドンの対米ドルレートは底堅い動きが予想されます。**

図表でチェック！

【ベトナムの国際収支】



【ベトナムドンと米ドルの推移】



この資料の巻末ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

上記は当資料作成基準日現在のものであり、将来の成果および市場環境の変動等
を示唆あるいは保証するものではありません。将来予告なく変更される場合があります。



「ベトナム株式市場の動向は？」

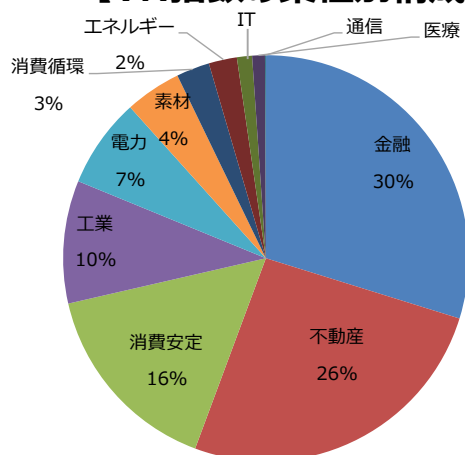
→3月後半以降のリスクオン相場で回復基調を予想。

ポイント：「株式市場は底値から回復途上」

- 3月後半以降のリスクオン相場でVN指数は回復途上にあります。新型コロナの抑制、経済の早期持ち直し観測に加え、ファンダメンタルズの中長期的な優位性が改めて評価されているようです。
- ベトナム株式市場（VN指数）の業種別構成をみると、金融、不動産の構成比率が高く、これら2業種の指数影響が大きいことが分かります。新型コロナによるマイナス影響が大きいと見られたこともあって、これら2業種の年初来パフォーマンスは出遅れていますが、今後のキャッチアップが期待されます。
- 不動産はベトナムの高い経済成長を享受できるセクターとして注目されます。政府は他のアセアン諸国と比べて低い持ち家比率の引き上げを重要政策として掲げ、特に低価格住宅の開発を促進しようとしています。若年層の多い人口構成、都市化の進展、住宅ローンの促進政策を考慮すると、住宅不動産分譲業者の恩恵は大きそうです。2019年には汚職撲滅運動の影響で首都ホーチミンを中心に建設工事が停滞した反動もあり、2020年の業績伸び率はこの分、高くなる可能性があります。大手の不動産建設業者は4月から建設工事を再開しており、早期の業績立ち直りを期待できそうです。
- 6月16日のVN指数引け値は856.13ですが、2018年4月の最高値（1,204.33）更新にはかなり距離があります。2018年当時の相場上昇は外国人投資家の資金流入に後押しされたものですが、今年4月以降の相場上昇は国内投資家主導によるもので、外国人投資家はむしろ売り越しています。相場急反発の後だけに、グローバルなリスクオフへの転換局面では利食い売りに押されるリスクを否定できませんが、バリュエーションに割高感はなく、中長期的なファンダメンタルズの優位性、外国人投資家資金の再流入の可能性を考慮すれば、中長期的な相場上昇余地は大きいと期待できます。

図表でチェック！

【VN指数の業種別構成比】

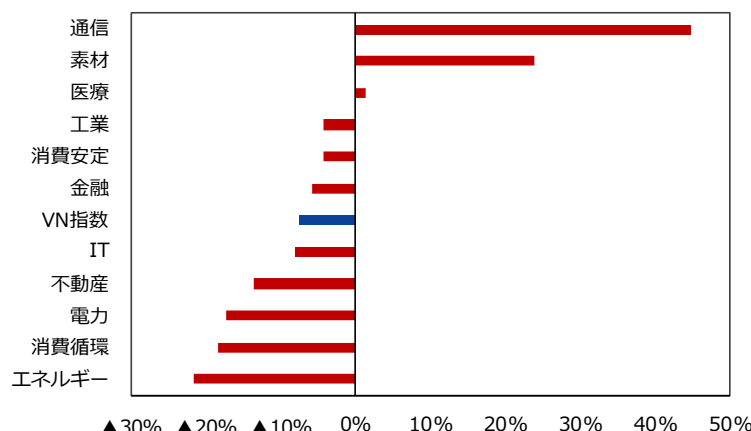


(注1) 業種分類はGICSを採用。一部銘柄の業種分類は、Bloomberg分類を基に再分類した。

(注2) データは2020年6月16日時点。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【VN指数の業種別年初来パフォーマンス】



▲30% ▲20% ▲10% 0% 10% 20% 30% 40% 50%

(注1) 業種分類はGICSを採用。一部銘柄の業種分類は、Bloomberg分類を基に再分類した。

(注2) データは2020年6月16日時点。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

この資料の巻末ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

上記は当資料作成基準日現在のものであり、将来の成果および市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。将来予告なく変更される場合があります。



図表でチェック！

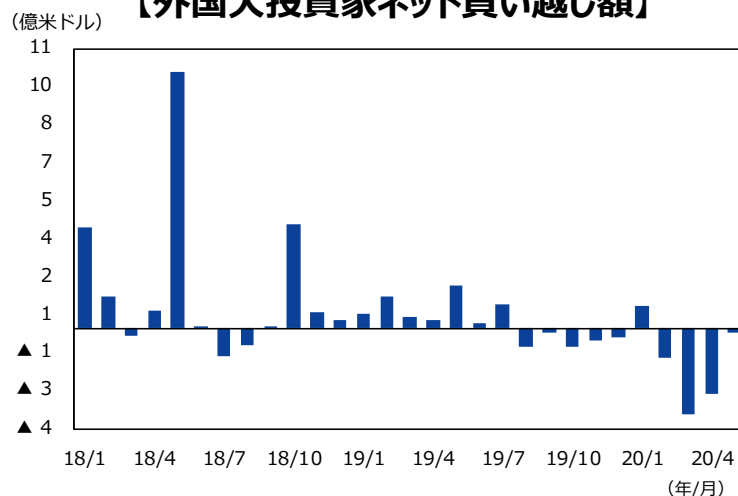
【ベトナムVN指数の推移】



(注) データは2018年1月1日～2020年6月16日。

(出所) CEICのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

【外国人投資家ネット買い越し額】



(注) 外国人投資家による購入金額と売却金額の差額。データは2018年1月～2020年5月。

(出所) CEICのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

【重要な注意事項】

- 当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。
- 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

作成基準日：2020年6月16日



三井住友DSアセットマネジメント